

じぶん
自分でできる

みなさんが、もし一人ひとりで家いえにいるとき、地しんじがおきたらどうしますか。みやびさんがとった行動こうどうを読んで考えてみましょう。

今日は、るす番ばん。外そとはもうくらくなくなってきたのに、お母さんかあはまだ帰かえってきません。

そのときです。きゅうに目の前まへのテーブルが、ぐらぐらしはじめました。

みやびは、いそいでテーブルの下したに入って、テーブルの足あしにつかまりました。大きなゆれは、なかなかおさまりません。食器しょっきがわれる音おとがして、家の電気いでんきが全部ぜんぶきえてしまいました。

やがて、ゆれがおさまると、みやびはとてもふあんになりました。ゆかの上うへにもものがおちていますが、くらくてよく分かりません。自分の体からだを見ると、どこもけがをしてはいないのでほっとしました。

(どうしたらいいだろう……。あっ、そうだ!)

みやびは、お母さんかあがいつも台所だいどころで聞いていたラジオをさがして、スイッチを入れました。すごく大きな地しんで、ラジオでは、「よしんに気きをつけること」と「つなみが来るかもしれないので、海うみや川かわのそばそばに近づちかづかないこと」をよびかけていました。

「地しんじが来たきたら、一人ひとりでも気きをつけて高台たかだいにある小学校しょうがっこう



にひなんしよう。」
と、家族かぞくで話し合はなっていたことを思い出おもしました。地いきちいきのくんれんで、近所きんじよの人ひとといっしょにひなんしたことも思い出おもしました。

いつもげんかんにおいてある、かい中電ちゅうでんとうをもち、ぼうしをかぶり、自分のぼうさいリュックをせおって、ドアをあけました。道みちやたてものの様子ようすに気きをつけながら外そとに出て、歩あるきはじめました。

「みやびくん、ぶじだったんだ。おじさんといっしょに小学校しょうがっこうにひなんしよう。」

と、となりのおじさんが話はなしかけてくれました。

近所きんじよの人ひとたちも、お年としよりや一人ひとりぐらしの人ひとを世話せわしながら、小学校しょうがっこうにむかっていた。あたりはすっかりくらくなくなって、遠くとほからひなんをよびかけるサイレンの音おとがひびいていました。

学校がっこうの体育館たいいくかんにつくと、先さきにひなんしていた友だちともに会あえてほっとしました。やがて、お母さんかあがむかえにきました。



みやびさんはぶじにひなんできました。
みやびさんのしたことで、よかったことは
どんなことでしょうか？